



岡 津



令和3年度のキーワード
「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 12月号
令和3年11月30日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586

言葉を操る小鳥に学ぶ

校長 宮路 ますみ

過日、NHKのBSプレミアムで「ワイルドライフ」という番組を観ました。内容は、「長野 軽井沢 新発見！言葉でつながる小鳥たち」。京都大学の鈴木俊貴 博士が行う研究に4年間密着したものでした。鈴木俊貴 博士は、シジュウカラとその仲間を対象に小鳥の言葉を研究しているそうです。「動物行動学」「動物言語学」といった研究領域があることすら初めて知った次第です。

鈴木博士によりますと、シジュウカラの鳴き声には私たちが話す言葉のように、意味があるそうです。例えば、「ジャージャー」は『近くに蛇がいるよ』という注意喚起の鳴き声。「ヒーヒー」なら、『鷹に注意』という意味だそうです。主に、鳥たちが天敵から身を守るために共通言語として身に付けた言葉のようです。その他にも、餌場を見つけた時の「みんな集まれ」という意味の鳴き声などもあるというから驚きです。今まで、私の耳には単なる鳥のさえずりとしてしか聞こえていなかったものが、実は互いを助け合う「言語」になっていたなんて、まさに大発見ではないでしょうか。しかも、その言語は同じシジュウカラだけにとどまらず、「カラ類」と呼ばれるゴジュウカラやヤマガラ、メジロなども共通の言語を使っているのだそうです。体も小さく、敵に狙われやすい鳥たちが力を合わせて、危険から身を守ろうと協力する様子を映像で見て、鳥たちの知恵深さとそのけなげさに心打たれました。

私たち人間が他の動物よりも繁栄できた理由の一つに「言葉を操ることができる」能力が備わっていたことがあると聞いたことがあります。人は、言葉で意思疎通を図ることができます。また、思いやりの言葉をかけたり、喜びや悲しみの感情を言葉で表現したりすることで、他人と感情を共有することができるのです。それは、他の生き物にはできない行動だと思います。言葉をもつことで、人は細やかな感情を、または複雑な思いを他者に伝えることができるようになったのです。それだけに、他者への言葉は、大きな力をもたらします。

私たち人間は、シジュウカラのように「仲間をいたわる言葉」や「喜びを共有する言葉」をかけることができているのでしょうか。日々聞こえてくる言葉は、他人を批判する言葉だったり他者の悲しみや苦しみに寄り添うことのない卑劣な言葉だったりすることの方がずっと多いような気がしてなりません。子ども達は、大人の影響を多大に受けています。家族や教師が使う言葉は、そのまま子どもたちの言語環境となるので、私たち大人は十分に注意して子どもたちと接する必要があります。優しい子どもに育てたいと思ったら、まずは大人が子どもたちに優しく接しているかを振り返ってみる必要があるのです。特に、叱る時ほど注意が必要です。子どもの心に染みわたる叱り方になるような言葉を選ばないと、せっかくの指導は単なる「脅威」に終わってしまうことになるのです。

会話をする基本は、シジュウカラのように「相手を思いやる気持ち」であることは言うまでもありません。私たちは、もう一度初心に立ち戻って、「相手を思いやる心」の溢れた言葉でコミュニケーションを図っていきたいものです。12月の人権週間が、自分の言葉を振り返るよい機会になればと願ってやみません。